「タスケ三兄弟」

平成 31 年３月 20 日
担　当：砂防課
担当者：山本
直　通：(082) 221-3764
内　線：３９４２

「平成３０年度土砂災害防止に関する絵画・作文」で入賞した小・中学生への表彰伝達式を行います！

国土交通省及び都道府県では，土砂災害に関する防災知識の普及・啓発に関する取組の一環として，全国の小・中学生を対象に「土砂災害防止に関する絵画・作文」を毎年募集しています。

本年度は，広島県の応募作品の中から，４名の優秀賞（事務次官賞）受賞が決定したことから，受賞者に対し表彰伝達式を行います。

是非取材をお願いします！

「平成 30 年度土砂災害防止に関する絵画・作文」表彰伝達式の実施内容

（１）開催日時・場所

平成 31 年３月 27 日（水）　１３：３０～

県庁北館４階　第３委員会室

（２）受賞者

作文（小学生）の部　栗栖（くりす）　姫久（きく）さん　安芸太田町立上殿小学校４年

渡邉（わたなべ）　顕世（けんせい）さん　東広島市立御薗宇小学校５年

作文（中学生）の部　石田（いしだ）　陽菜（ひな）さん　府中町立府中中学校３年

瀧野（たきの）　大翔（ひろと）さん　府中町立府中中学校３年

※受賞作品は別紙参照

（２）表彰伝達者

広島県土木建築局長　三上　幸三

※取材される場合は，直接会場にお越しください。お待ちしています！

＜参考＞　広島県における近年の応募状況等（平成 26 年度～平成 30 年度）

年度	応募数						応募校数		
	絵画		作文		合計	入賞者数	小学校	中学校	合計
	小学生	中学生	小学生	中学生					
H26	10	5	3	6	24	1	6	4	10
H27	27	204	15	20	266	1	10	11	21
H28	158	140	28	249	575	6	10	21	31
H29	127	120	18	11	276	2	11	11	22
H30	78	225	37	282	622	4	12	22	34

別紙

「　ひなんの大切さを学んで　」

広島県　安芸太田町立上殿小学校　４年　栗栖（くりす）　姫久（きく）

今年７月の大雨の時，私は，土居のおばあちゃんの家にいました。雨がたくさんふってきて，水路があふれてきました。そして，道路が川のようになってしまいました。玄関から水が入らないように土のうを置くことにしました。すると，近くに住んでいるおじさんが，
「ひなんした方がいい。」
と言いに来てくれました。それで，近くの親せきの家に行くことにしました。親せきの家にいると，今度は無線でひなんかんこくの知らせがありました。だから，役場の東館におばあちゃんと妹とひなんすることにしました。妹と作ったおむすびと，お茶，ふとんを持って行きました。今までの人生で初めてのことだったので，とてもこわかったです。母さんも仕事場からすぐに来てくれて，顔を合わせることができました。それに，知っている人もたくさんいたので，すぐに安心しました。役場には一晩とまりました。人がたくさんいるし，どうなるんだろうとこわくて，なかなかねむれませんでした。いつもはぜんぜん起きない妹ですが，次の日の朝は，５時に起きていました。私も５時半に目が覚めました。私たちの住んでいる安芸太田町では，それほど大きなひがいも出なくて，ほっとしました。

今回は，おばあちゃんの家にいた時にひなんをしましたが，自分の家にいる時はどこにひなんすればいいんだろうと思いました。そうしたら，学校で防災教室があり，ハザードマップ作りをすることになりました。ハザードマップ作りでは，グループごとに話し合いをしました。どこがあぶないか，どこにひなんすればよいのかなどを話し合いました。
「ここはあぶないんじゃない。」
「ここにひなんすればいいんじゃない。」
などと，みんなでアドバイスをし合いながらマップ作りをしました。また，こうしの先生方が，
「ここはあぶないから，ひなんする時はこっちの道を通ってにげたら，安全ににげられるよ。」
「ここは気をつけたほうがいいよ。」

などとくわしく教えて下さったり，アドバイスをして下さったりしてくれました。その結果私は，一番近くにある寺に逃げると，きけんな場所が多いため，東長田集会所にひなんすることにしました。でも，時間があれば，上殿小学校や戸河内の役場に家族全員でひなんすることにしました。

次の日，登校の時にみんなで，あぶない所などをかくにんしながら登校しました。すると，田んぼの石がきにひびが入っている所や，崩れそうなところなどがありました。
「これ，ぜったいに落ちてくるよね。」
「ここにおったら，あぶないよね。」
などと話しながら，その場所を見ながらゆっくり通りました。

今度，お父さんとお母さんとひなんするルートを歩いて，どんな所を歩いてひなんするかなどをたしかめたいです。もし，災害が起きたら，このマップを参考にして，安全にひなんしたいです。家の人にも教えてもらったことを伝えて，いざという時にそなえたいです。

「　おそろしい土砂くずれ　」

広島県　東広島市立御薗宇小学校　５年　渡邉（わたなべ）　顕世（けんせい）

平成 30 年（2018 年）７月７日，今までにないような大雨が降った。ぼくが住む広島県内では，とても大きなひがいになってしまった。雨がまだ降っているときは，ここはだいじょうぶ，テレビで報道されている所だけだと思っていた。でも，雨が止んだ日，車で外に出た。すぐ近くのいたる所で土砂くずれ。ついこの前いた場所がまるで，ちがう場所かのように，景色が変わっていた。テレビで報道されているところ以外にもたくさんひがいがあったのだ。

だいぶ落ち着いてきて，広島市のおばあちゃんちに行った時も，あそこも土砂くずれ，ここも土砂くずれになっていて，ここも景色が変わっていた。

お母さんの友達がひがいに合っていたし，この前まであった家があとかたもなくなっていたり，土砂が道路に流れだしていて，びっくりした。

こんな経験は，生まれて初めてだった。

ひなん指示はやりすぎだと思っていたけれどそうではなかった。

そして，ひがいが明らかになると，目をうたがった。広島県内で死者は 100 人を超えていた。そのうち約 60 人は土砂くずれで亡くなっていた。

建物ひがいも，中国地方だけで，3000 棟を超えていた。

土砂くずれも，広島県で 250 ヶ所近くありおどろいた。

今は，もう解消されているが，停電や断水も色々な場所でおきていた。

ひがいに合った人達が，大変そうに，土砂をてっ去している様子をテレビで見た。猛暑日が続く中，作業をしていた。

この作業を見ていると，４年前の集中豪雨による，広島での土砂災害を思い出す。その時，ちょうど旅行に行っていたので，ニュースを旅行先で見て，自分の家や広島市のおばあちゃんちが心配だった。その時も，大量の土砂が団地におしよせた。そして，たくさんの人がひがいに合った。

お母さんの友達が命は助かったけれど，家の近くまで土砂がおしよせてきていたり，知り合いの人は亡くなってしまった。

この２つの大きな土砂災害から身を守るためには，自分はだいじょうぶと油断せずに，いつもとちがうと感じれば，すぐにひなんすること。気象情報を事前に調べているとなお良いかもしれない。

また，地域で声をかけ合って，集団で行動し，なるべく安全にひなんすることや，ルールを決めてひなんする。実際に，今回の豪雨でも，自分の町は，あぶないと知り，町のみんなでルールを決めていたので死者が出なかったという町があった。

防災グッズを持っていれば，停電，断水にも何日間かなら対応できるだろうと思う。

ハザードマップは住んでいる土地の特ちょうを知ること，また，ひがいの予想と今回のひがいがほぼいっちしているため，非常に有効ではないかと思う。

防災訓練も，大切で，しっかり訓練をしていれば，あわてずに落ち着いて行動することができるのではないかと思う。

このような事をすることができれば，人的ひがいは大きく減らすことができたと思う。しかし，自然災害はおそろしい。土砂災害は，一瞬で物や家，人，町までものみこんでしまうのだから。

「　私たちがすべきこと　」

広島県　府中町立府中中学校　３年　石田（いしだ）　陽菜（ひな）

７月６日，西日本の各地でこれまでに経験したことのないような大雨が降った。広島には特別警報が出され，避難指示や避難勧告が出された地域もあった。私の住む府中町でも１日中激しい雨が降り続いた。川の水かさも増し，ものすごい濁流だった。しかし，川の水の勢いで道路が何箇所か陥没した以外は，私の周りで大きな被害はなかった。

通学路の安全確認ができ，７月 10 日に学校登校した。７月 10 日は晴れていて，川の水は普段と同じくらいにまで減ってきていた。この日は期末テストが行われた。１時間目，２時間目のテストは無事終わり，３時間目のテストを受けている途中に先生の携帯の警報音が教室に鳴り響いた。何事かと思ったが，府中町とは関係ないだろうと思った。しかし，窓の外からもサイレンの音がしていることに気がついた。サイレンは絶えず鳴り続いた。いままでこんなにサイレンが鳴ったことは無かったため少し不安に思いながらも問題をとき，３時間目が終わった。休憩中に校内放送が流れ，榎川が決壊したことを知った。朝は何ともなかった榎川が決壊するなんて考えてもみなかったし，何が起こったのかと不思議に思った。しかし，詳しい情報は分からないまま５時間目まで通常通り授業があった。その後体育館に集まり，迎えが来た人から帰ることになった。私は，友達のお母さんと，私の母のいるイオンモールに行った。私の家に帰るには，榎川沿いの道を通らなければいけないのだが，その道が通れなかったらしい。私は榎川の映像を見てとても驚いた。見覚えのある風景が泥まみれになっていたからだ。まさか，府中町で災害が起こるなんて考えたこともなかった。私はこのことから，自分の住む地域でも災害が起こる可能性は十分にあることを理解し，命を守るための行動をとれるようにすることが大切だと知ることができた。また，雨が降って数日たっても土石流が発生することがあると分かり，雨が降り止んだ後でも，すぐに避難できるように準備することが大切だと感じた。

災害のあった日から１週間学校が休みになり，私は３日間ボランティアに行った。思っていた以上に土砂の量は多く，水を含んだ土砂は重く，作業はとても大変だった。日本では土砂災害が多く，テレビで復旧作業の様子を見たことがあったが，現場に行ってみないと匂いや土砂の重さなどは伝わってこない。今回ボランティアをして，現場は本当に大変だと知ることができた。復旧作業を行う時に中心となって指示を出していたのは，土砂災害の復旧作業を経験したことがある人など復旧作業の手順を知っている人だった。指示のおかげで，土砂を早く撤去すべき所を先に片付けることができ，スムーズに作業ができた。復旧作業に関する知識を身につけておくことは重要だなと感じた。

災害を減らすために何かしたいが，私達には砂防ダムを作ったりすることはできない。しかし，私達にもできる災害への備えがある。

１つ目は，自分の住んでいる地域の危険な所を知ることだ。ハザードマップで自分の住む地域の危険な場所を知ることができる。また，かつて災害が起こった地域には石碑があることも多いので，それも確認するべきだと思う。

２つ目は，土砂災害の前ぶれを知ることだ。前ぶれを知っていればいち早く避難できる。前ぶれにはいろいろなものがあるが，土石流の場合は，川の水が濁り，水と一緒に木が流れてくる，雨が降り続いているのに川の水が減るなどがある。

３つ目は，避難のし方を考えることだ。避難場所はハザードマップで調べることができる。家族全員で避難場所や通る道の確認をして，大雨の時でも安全に避難できるかを考えながら実際に歩くことが大切だ。

災害は日本のどこでも起こり得る。だから，災害を自分のこととして捉えて，防災に関心を持ち，災害が起こった時に自分の命を守る行動をとれるようにすることが必要だ。また，災害が起こった後は，ボランティアに参加するなどして被災者を助けることが必要だと思う。私は，私の住む府中町についてもっと知ろうと思う。また，災害や災害の復旧についても学び，災害が起こってしまったときに役立てたいと思う。

「　土砂災害から命を守る　」

広島県　府中町立府中中学校　３年　瀧野（たきの）　大翔（ひろと）

７月９日の朝，テレビをつけると各地の被害の状況が明らかとなっていた。その映像を見ていた自分は，４年前の 2016 年８月の朝，土砂災害が発生した現場の映像がテレビで流れていた時のことを思いだした。

そして，わずか４年後にその時の被害を上回る災害が起こるとは思いもしなかった。

自分は，４年前の災害が父の実家のすぐ近くで起きたため，土砂災害をとても身近なことに感じることが出来ていた。

しかし，土砂災害についての知識はほとんどなかったので，昨年の自由研究の研究課題にして，土砂災害が発生する原因や危険箇所などを，今住んでいる府中町を中心に調べてみた。その時に調べた土砂災害が発生する可能性の高い状況や原因等を，今回土砂災害のために大きな被害を受けた地域に当てはめてみた。するとほとんどの地域が調べた原因に当てはまった。

土砂災害が発生する危険性のある要素は大きく分けて３つある。１つ目は地質である。広島は大半のエリアが花こう岩質で，これらが長い年月をかけて風化してできた真砂土が表面に堆積している。この真砂土は非常にもろく，大雨などで崩壊する可能性が高い。２つ目は地形である。土砂災害が発生しやすい場所は山間部の渓流（小さな小川等）のある場所である。危険性の高い箇所は土砂災害警戒区域，又は土砂災害特別警戒区域に指定されている。３つ目は気象条件である。広島では平成になってから発生した土砂災害が今回で３回目であるが，いずれも連続雨量 300 ミリ以上，又は時間雨量 80 ミリ以上の短時間での集中豪雨となっている。

これらの発生原因は４年前の災害時からいろいろなところで伝えられてきたはずだが，今回の集中豪雨でも多くの被害が出る結果となってしまった。前回の土砂災害が発生してから４年程度しか経っていないのになぜ教訓に出来なかったのか。そこで，今回の豪雨災害に関するニュースや記事を見直してみた。

その中で，今回の災害で被害の大きかった矢野東の団地で被災された人のインタビューの内容が印象に残った。「ダムが完成して安心しきってしまった。考えが甘かった」と述べる。実は今年になって団地の上流に治山ダムが完成したばかりだったが，土砂はそのダムを越えて団地にまで達していた。

今回の豪雨災害のニュースや記事を見ていると，土砂災害などの被害に遭われたケースは「自分のところは」「まさかこんなことになるなんて」などといった思いから避難をしなかった，又は避難が遅れたケースが多かったのではないかと思う。ただ，今回の矢野東の団地のように，治山ダムの様な目に見える形で防災対策がされれば，安心してしまうところはあっても仕方がないとも思う。

しかし，治山ダムを作る工事の前に説明会で広島県や広島市の職員の方たちが，「これで安心できるわけではありません。何かあったら必ず逃げて下さい」ということを繰り返し訴えていたという。実際に今回の災害後の調査ではダムは決壊しておらず，大量の土砂がダムにたまっていたという。ダムとしては一定の機能を果たし，被害の拡大は防ぐことが出来たのだが，土砂はダムの想定を超えたという結果となっている。

４年前の土砂災害の発生を受けて，県や国は県内 74 カ所で砂防ダムや治山ダムの建設などの対策を計画，今年５月までに 66 カ所が完成している。それと同時に，土砂災害の警戒区域等の指定もすすめられているが，大事な事は，これらの対策の内容をどれだけの人が知っているのかということだ。

早目の避難指示や避難勧告，ダムの建設などいわゆる「防災（防ぐ）」ということについては一定の対策がされていて，実際にその効果があったところもあると思う。

しかし，天気予報などでよく聞く「これまでに経験したことがない…」という言葉通り，今までの常識とは当てはまらないという考えを持つことがとても大事になるのではないかと思う。いろいろな対策の基準はこれまで経験が基となっているため，これまでに経験したことのないことが発生すれば講じた対策だけでは厳しいという考えを持っておかないといけないと思う。

昨年の自由研究は，父に少し手伝ってもらったので，今回の災害のことについて話をしてみた。父は，「これからは『防災』ではなく災害から逃げる，避ける『避災』が大事だ」と言っていた。

想定できないことが現実に起こっているということを認識して，「防ぐ」だけでなく，「避難する」大切さというものを意識出来ればよいのではないかと思う。